

Amoxicillin の皮膚科領域での使用経験

朝田康夫・池上隆彦

関西医科大学皮膚科学教室

はじめに

Amoxicillin (α -amino-*p*-hydroxybenzyl penicillin) は、Aminobenzyl-penicillin 類似新抗生物質として英国 Beecham 社研究所により開発された新しい半合成ペニシリン剤である^{1,2)}。In vitro での抗菌スペクトルも Aminobenzyl-penicillin (Ampicillin) に類似するものであるが、内服ないし皮下注射により Ampicillin に比して血中濃度が高いことが証明され、グラム陽性および陰性菌による感染症において、Ampicillin よりすぐれた臨床効果が期待されるものである。

今回本剤を膿皮症に使用する機会があつたので、以下に報告するものである。

対象疾患：伝染性膿痂疹 1, 癬 6, 癰腫症 1, 瘰癧 2, 2 次感染性粉瘤 1 の計 11 例を対象とした。

投与方法：Amoxicillin capsule (1 カプセル中 250 mg を含有) を経口的に投与した。量は成人では 1 日 1.0 g を毎食後 30 分および就寝前の 4 回に分服させた。伝染性膿痂疹の幼児例では 125 mg カプセルで同様の 4 回分服法により 1 日 500 mg を使用した。

効果判定：内服後 3～4 日後、および 6～7 日後に他覚的所見の改善度、自覚症の軽減度を目標として効果の判定を行ない、最終判定は 6～7 日後の場合を参考とした。

著効………内服後 3～4 日で著明な自他覚所見の好転ないし治癒のみられたもの。

有効………内服後 6～7 日で自他覚症状の好転ないし治癒のみられたもの。

無効………7 日以上内服しても症状の好転がみられないもの、あるいは症状のかえつて増悪するもの。

臨床治療効果：

11 例全例の臨床効果は Table 1 に症例ごとに掲げた。

6 例の癬についてみると第 1 例の癬では使用後 3 日後に潮紅、腫脹は減少し始め疼痛も軽減してきた。さらに継続して 7 日後にほとんど完治となつた。この発効の様子は ABPC と大差ないように見うけられた。

第 2 例も内服 3 日後から好転を示し 6 日でほとんど治癒し、第 3 例は 4 日後から自他覚所見の好転が始まり 7 日で治癒、第 4 例は内服 2 日後にして好転が始まり 4 日

後にほとんど治癒するという具合に著効を示した。第 5 例は 2 日後に自覚症だけ好転したが他覚所見はあまり変化を示さず、7 日後になつて他覚所見の著明な好転がみられ、第 6 例は 7 日後もなお症状は好転を示さず 9 日後に別の抗生物質 (セファロスポリン系) に変更して効果をみた例である。すなわち、われわれの効果判定基準によると癬 6 例中 5 例に有効～著効 (83%) を示した。

癰腫症の 1 例については内服後 3 日ではなお著変を示さず、内服 7 日頃から自他覚所見の好転がみられ 9 日後には明らかに好転軽快した。また新しく癬の発生もみられなくなつた。

瘰癧 2 例では第 8 症例では 14 日間継続使用したが、7 日後では症状は好転せずさらに増強する傾向を示し 10 日頃になつて次第に排膿が起こり少しずつ自然に好転したが、いちおう無効と判定した。第 9 症例では使用 5 日後には症状は著明に好転し疼痛もほとんど消失し 9 日後には他覚的に略治の状態となつた。

2 次感染性粉瘤では 4 日後に腫脹は著明に軽快し潮紅も消失して内服 5 日で略治となつた。

伝染性膿痂疹は 1 例だけであるが第 11 症例のように 4 日後に各病巣は乾燥し始め新疹の発生も中止され 7 日後に完治した。外用に抗生物質は使用していない。

以上の 11 例の膿皮症のうち、著効 2, 有効 7, 無効 2 となり有効率は 11 例中 9 例 (82%) となる。

副作用は全例において認められなかつた。

細菌学的観察については 11 例中 3 例だけにディスク法による感受性検査を行ない得た。

すなわち第 3 症例、第 5 症例、第 8 症例の 3 例から表皮ブ菌、黄色ブ菌、黄色ブ菌をそれぞれ分離した。そのうち 1 例だけ (第 3 症例) Amoxicillin と ABPC との感受性比較を行ない得たが、その結果は寒天希釈法における MIC 測定で Amoxicillin 0.78 mcg/ml, ABPC 0.19 mcg/ml であつた。他の 2 株では Amoxicillin の MIC を測定し得なかつたが、第 5 症例の黄色ブ菌では PC G(++)、MCI(++), EM(-), TC(++), CP(++), KM(++), であり、第 8 症例の黄色ブ菌では PC G(++), MCI(++), ABPC(++), EM(+), TC(++), CP(++), KM(++), であつた (いずれもディスク法)。

Table 1 Clinical results of amoxycillin in 11 cases

No. of case	Type of pyoderma	Sex	Age	Location of pyoderma	Duration of administration	Total doses	Species of <i>Staphylococcus</i>	Clinical course	Effect	Side effect
1	Furuncle	♂	42	Face	7 days	7.0 g	<i>St. aureus</i>	After 3 days, remarkable reduction of objective symptoms. After 7 days, cured.	good	None
2	Furuncle	♀	24	Left neck	6 "	6.0 g	—	After 3 days, reduction of symptoms was observed. After 6 days, cured.	good	"
3	Furuncle	♂	36	Face	7 "	7.0 g	<i>St. epidermidis</i>	After 4 days, remarkable reduction of objective symptoms. After 7 days, cured.	good	"
4	Furuncle	♂	46	Face	4 "	4.0 g	—	After 2 days, reduction of objective signs. After 4 days cure was observed.	excellent	"
5	Furuncle	♀	58	Right abdomen	12 "	12.0 g	<i>St. aureus</i>	After 2 days, only subjective symptom reduced. After 7 days, remarkable reduction of objective symptoms.	good	"
6	Furuncle	♂	18	Right arm	9 "	9.0 g	<i>St. aureus</i>	Even after 7 days, no reduction of objective and subjective symptoms.	failure	"
7	Furunculosis	♂	20	Torso, Extremities	13 "	13.0 g	<i>St. aureus</i>	After 7 days, reduction of symptoms began. After 9 days, remarkable reduction.	good	"
8	Panaritium	♂	31	Left fourth toe	14 "	14.0 g	<i>St. aureus</i>	After 10 days, symptoms began to reduce its grade.	failure	"
9	Panaritium	♂	27	Left thumb	9 "	9.0 g	<i>St. aureus</i>	After 5 days, pain reduced its grade. After 9 days, symptoms disappeared.	good	"
10	Infected atheroma	♀	24	Right thigh	5 "	5.0 g	<i>St. aureus</i>	After 4 days, reduction of symptoms.	good	"
11	Impetigo	♂	7	Face, Extremities	7 "	3.5 g	<i>St. aureus</i>	After 7 days, symptoms have already disappeared.	excellent	"

Effective rate is 82%.

ま と め

以上、皮膚科領域における膿皮症に対して、Amoxycillin を使用した成績につき報告した。本剤は、ブドウ球菌による皮膚軟部感染症11例に対してみるべき効果を示し、臨床的応用に充分価値あるものと認められた。効果発現の場合は内服3～4日くらいで症状の好転が生じる場合が多い。

副作用として一般にいられている胃腸障害、発疹などは11例の使用では全例にみられなかった。

文 献

- 1) Amoxycillin : 第21回日本化学療法学会総会シンポジウム, 昭48年6月21日
- 2) BRL 2333 治験説明書, 藤沢薬品工業株式会社, 協和醸酵工業株式会社

AMOXYCILLIN IN THE TREATMENT OF VARIOUS PYODERMAS

YASUO ASADA

Department of Dermatology, Kansai Medical School

The results of amoxycillin therapy in the eleven cases of various pyodermas, *i. e.*, 6 cases of furuncle, 1 case of furunculosis, 2 cases of panaritium, 1 case of infected atheroma and 1 case of impetigo contagiosum, were reported.

Amoxycillin was administered orally at dosis of 1.0g per day with divided method (each 250 mg, four times a day).

The clinical effects of amoxycillin have been classified into three categories :

excellent.....remarkable effect within 3~4 days

good.....good effect within 6~7 days

no effect.....no effect after 7 days administration

The results of all 11 cases treated with amoxycillin were as follows :

Two cases were excellent, 7 cases were good and 2 cases were failure In the excellent group and the good group, the effect of amoxycillin was observed on the third or fourth day of the administration.

No remarkable side effects were observed in all 11 cases.